

廿日市市景況調査 (2016年10~12月)

◇旧廿日市市(合併前の区域)の調査結果になります◇

全国の12月景況 「業況DIは3カ月連続改善、先行きは不透明感強く横ばい圏内の動き」

12月の全産業合計の業況DIは、▲21.7と、前月から+1.2ポイントの改善。冬の観光需要が堅調な宿泊業・飲食業に加え、運送業、ソフトウェア業などが下支えし、サービス業の業況感が広く改善した。また、卸売業から農産物の価格高騰の影響が和らいだとの声や、建設業から住宅など民間工事の堅調な動きを指摘する声が多く聞かれた。他方、消費低迷が続く中、人手不足による受注機会の損失や人件費の上昇が中小企業のマインドを下押ししており、業況改善の動きは依然として力強さを欠いている。

先行きについては、見通しDIが▲21.5(今月比+0.2ポイント)とほぼ横ばいを見込む。冬の賞与増、株高進行による個人消費の伸びや設備投資の増加、海外経済回復に期待する声が聞かれる。他方、消費低迷の長期化、人手不足の影響拡大、次期米国大統領の政策の影響など、先行き不透明感を懸念する声は多く、中小企業においては慎重な姿勢を崩していない。

会議所管内の10~12月景況 「慢性的な人手不足、景況は停滞感」

前年同期比では、全産業合計の総合業況DIが▲26.4と、前期(28年9月▲28.1)より1.7ポイント上昇。産業別の業況DIでは、製造業が18.8ポイント上昇、建設業は19.0ポイント下落、卸小売業で9.9ポイント下落、飲食・サービス業で11.4ポイント上昇。

向こう3ヵ月(1~3月)の先行き見通しでは、全産業合計の総合業況DIが▲27.6と前期(28年9月▲18.9)より8.7ポイント下落した。産業別の業況DIでは、製造業で32.5ポイントと大幅に下落、建設業で20.3ポイント、卸小売業で4.4ポイントそれぞれ下落、飲食・サービス業では4.0ポイント上昇の見通しとなっている。

全国調査と同じく、当所の調査やヒアリングでも「人手不足」が慢性的で「仕事はあるが人手がないので受注・売上を伸ばせない」といった声が聞かれる。

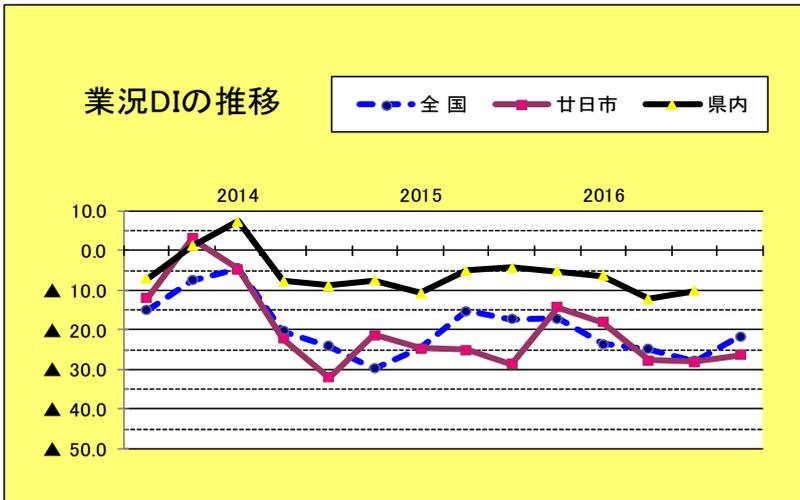
各事業所から寄せられた「業界の動向」「重点を置いていること」「新商品・販路」「景況感の理由」など。

【製造業】	新製品の開発・展開が思うように進まない	円高の影響で好転	取引条件が悪化してきた
【建設業】	顧客との接点を増やし提案力を高める	販路を拡げたいが若い人材確保が難しい	
【卸小売業】	本業以外の収益を増加 業界全体の動きが鈍い	業務レベルを高める 新商品が好調で好転	売上(需要)が増えない・受注減 顧客満足度が上げるよう努力
【飲食・サービス業】	受注単価が下落	顧客の安価指向	業界の需要減 仕事はあるが人手不足 季節的に減少

業種別 景況概要	全国(12月)		廿日市市 10~12月									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲16.0	▲17.0	▲21.8	▲33.3	▲10.0	▲15.0	0.0	▲21.4	▲45.2	▲45.2	▲13.6	▲40.9
採算	▲19.1	▲19.4	▲21.8	▲29.9	5.0	▲20.0	▲42.9	▲28.6	▲35.5	▲45.2	▲13.6	▲18.2
仕入単価	▲28.0	▲28.4	▲20.7	▲28.7	▲5.0	▲25.0	▲28.6	▲28.6	▲32.3	▲35.5	▲13.6	▲22.7
雇用人員	18.1	17.4	12.6	14.9	10.0	10.0	28.6	28.6	0.0	6.5	22.7	22.7
業況	▲21.7	▲21.5	▲26.4	▲27.6	0.0	▲20.0	▲35.7	▲28.6	▲45.2	▲38.7	▲18.2	▲18.2

※ 全国調査は【日本商工会議所LOBO調査】をご参照ください

(対象 191社 回答 87社)



特に好調	$50 \leq DI$
好調	$25 \leq DI < 50$
まあまあ	$0 \leq DI < 25$
不振	$\blacktriangle 25 \leq DI < 0$
きわめて不振	$DI < \blacktriangle 25$

●設備投資は？

		10~12月	1月~3月 見込み
実施した	土地	1	3
	建物	5	5
	機械	7	8
	車両	10	9
	OA	4	4
	その他	3	5
	計	30	34
実施していない・しない		68	63

※複数回答・無回答あり

●当面の問題点は？

第1位	売上、需要の停滞	31.0 %
第2位	従業員、人材の確保難	13.0 %
第3位	販売単価の低下、上昇難	9.0 %
第4位	材料費、仕入価格の上昇	8.4 %
第5位	消費者ニーズの変化の対応	5.2 %

※「その他」はランク外扱い

●DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断状況を表す。ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上など実数値の上昇や下降を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ $DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$

業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)